

第一回 JEES 教育シンポジウム 報告書

開催日2013年6月2日

NPO法人 全国初等教育研究会

■研修会名

第一回JEES教育シンポジウム

■研修会種別

主催： NPO法人 全国初等教育研究会

後援： 東京都豊島区教育委員会

協力： 株式会社 教育同人社

■開催日時

2013年 6月2日(日)

■開催場所

ホテル椿山荘東京

■講師名

柳瀬修理事長、堀田龍也理事、藤川大祐理事

■参加人数

教員(教員OB含む) 181名

一般 123名

合計 304名

■研修内容

テーマ:授業力をつけよう, 若手教師たち!

1. 開会挨拶 森達也 副理事長

2. 第一部 基調講演「授業力をつけよう」 柳瀬修 理事長

3. 第二部 理事対談「若手教師を育てる私たちの取り組み」

堀田龍也理事・藤川大祐理事

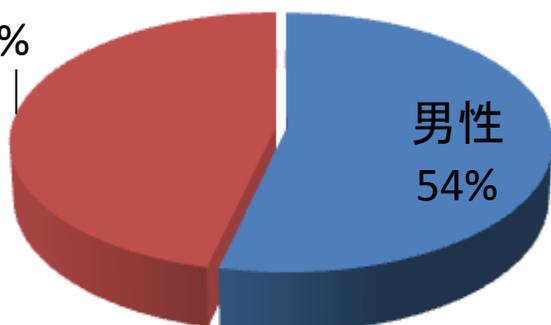
4. 交流会

男女比

<教員>

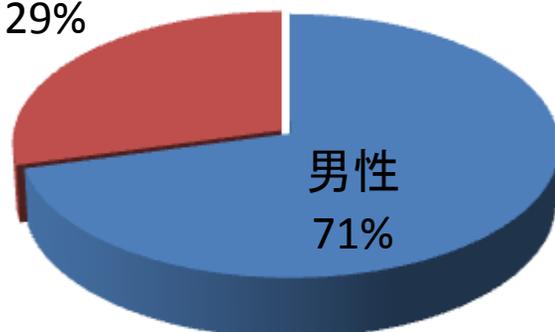
※教員OB含む

女性
46%

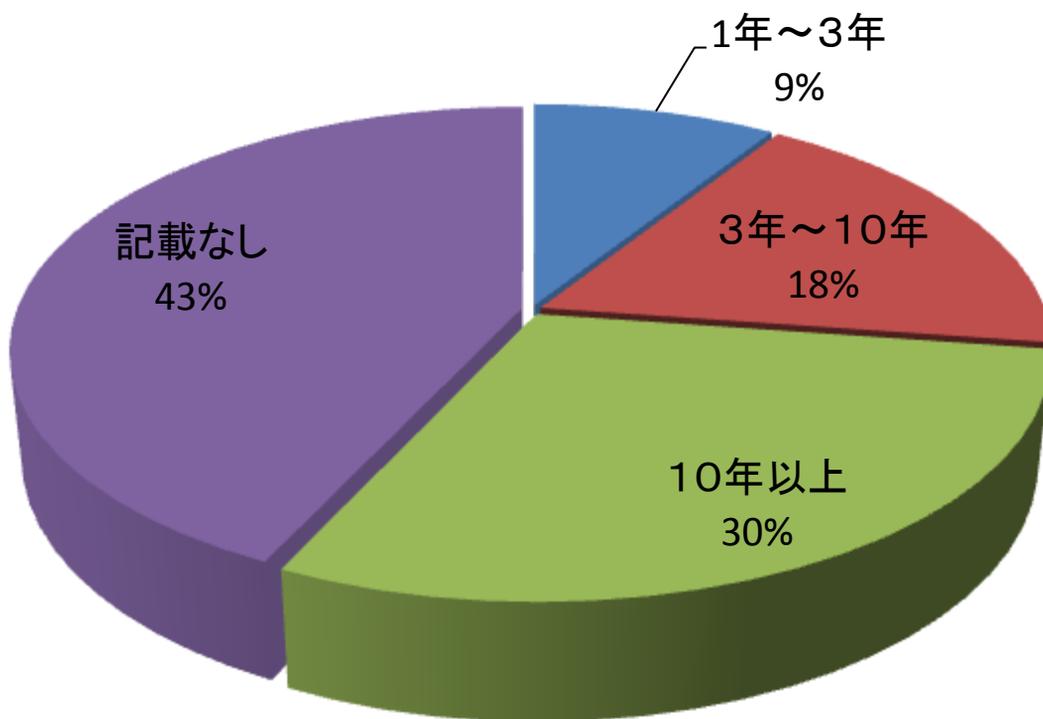


<一般>

女性
29%



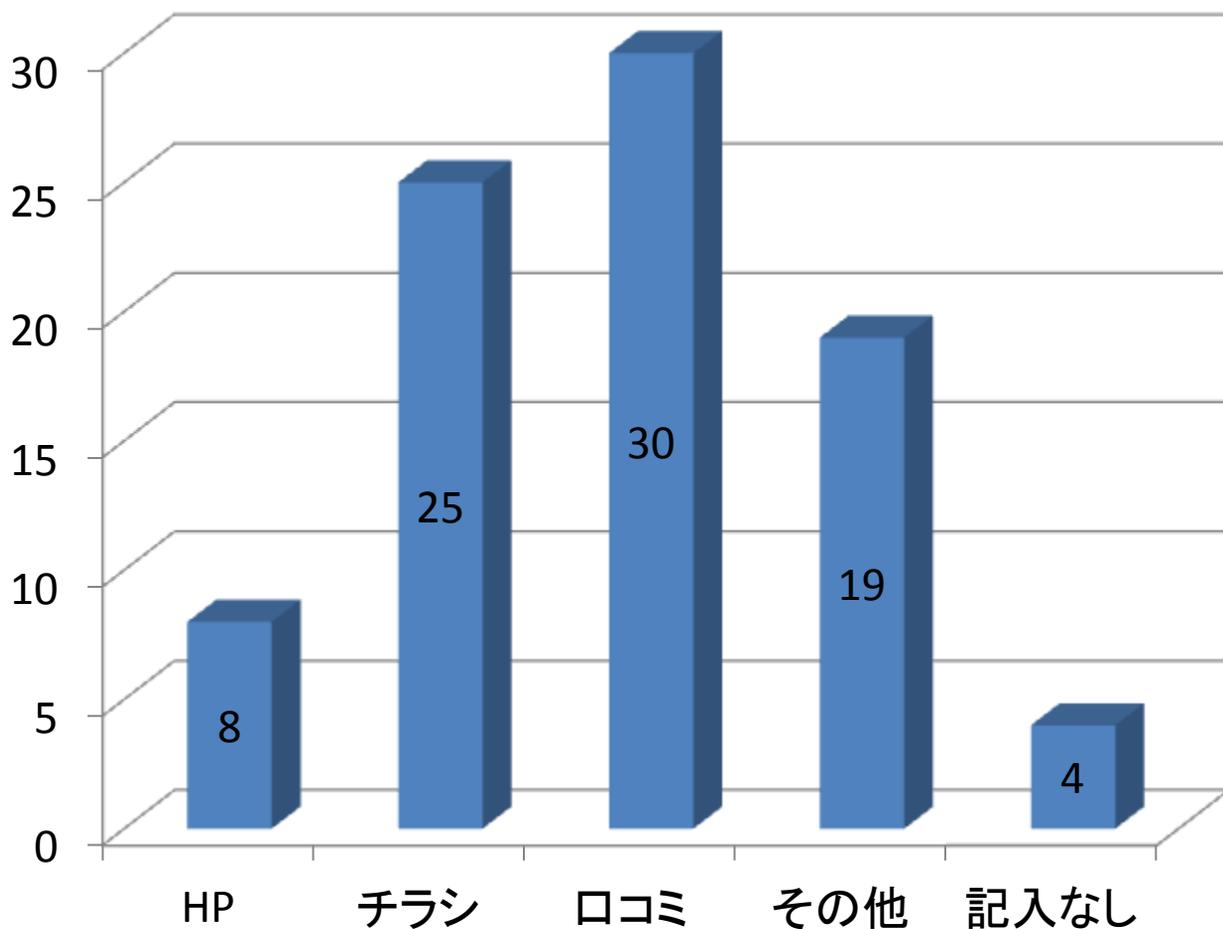
教員勤続年数対比



今回のシンポジウム開催は何でお知りになりましたか？

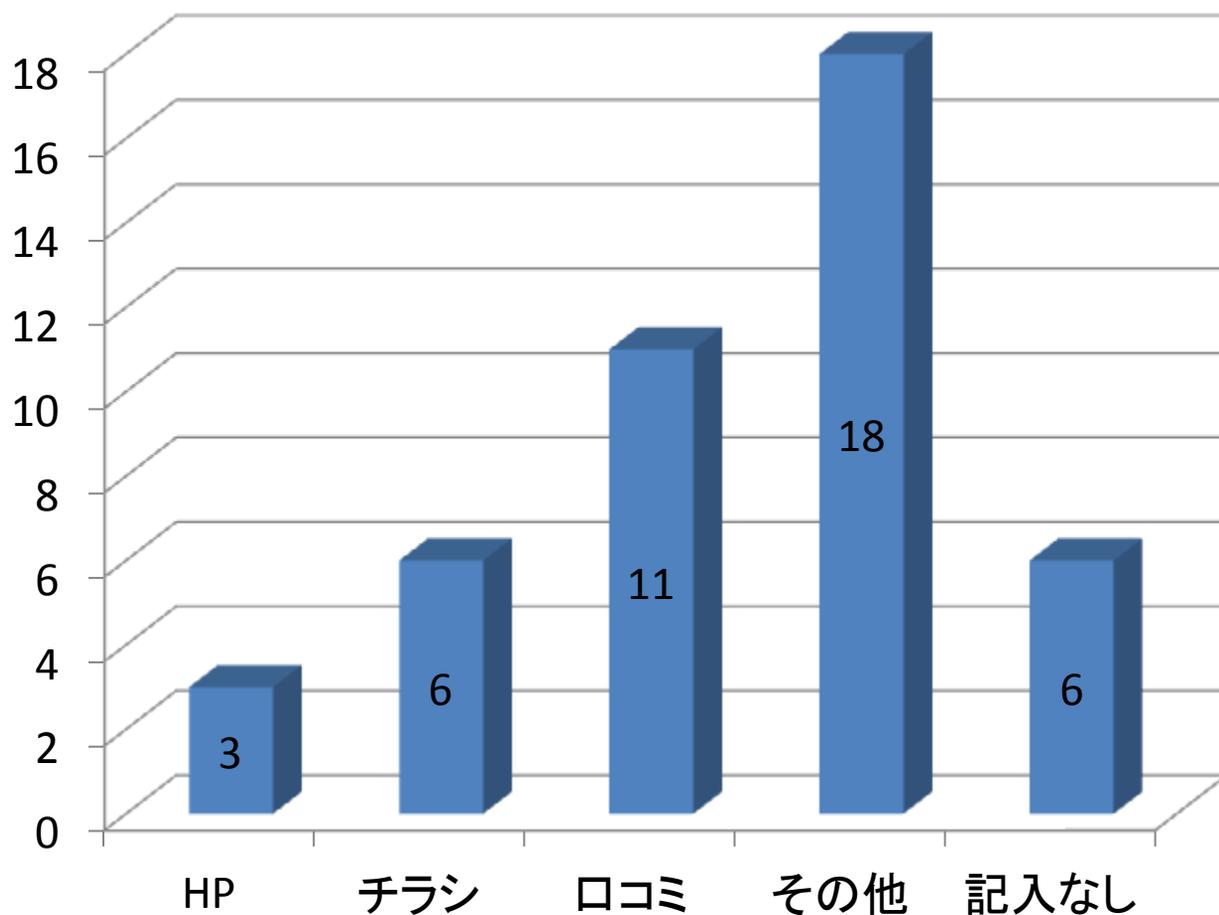
(人・複数回答可)

<教員>



今回のシンポジウム開催は何でお知りになりましたか？ (人・複数回答可)

<一般>



第1部 基調講演 柳瀬 修先生講演についてのご意見・ご感想をお書きください。〈教員〉

- ・いつの時代でも、教師は学び、研究し、授業力をつけていかなければならないことがよくわかりました。とても納得したお話でした。次回への期待が大きくなりました。
- ・いつまでも学びつづける柳瀬先生の姿勢に感服しました。
- ・若手教師への伝承本質を見失わないように支援していきたい。
- ・教えるということについて授業力をもとにした解説をしていただき興味を引かれました。ぜひ、第2回目をお聞きしたいです。
- ・お話の内容もさることながら先生の生き方そのものがまさに若手教師のお手本になると感じました。
- ・若手の先生方が目指すべき方向性をお示し下さり、大変興味深い内容でした。ありがとうございました。
- ・今にも通じる貴重なご経験に基づいたお話、とても楽しく拝聴しました。次回も楽しみです。
- ・御自身の経験にもとづいた話、とくに数学に対してのエピソードは興味深かった。全般的な話が中心だったが、今後、具体的な授業について話が聞けると期待しています。楽しい授業で子ども達に力がつく内容の授業づくりのコツについて話を聞きたい。
- ・先生のお話楽しくきかせていただきました。みんな(教員)きけばいいのにと思いながら聞いていました。明日授業をするファイトがわいてきました。先生のご講演から明日提出する自己申告書を書けそうです。
- ・考えさせるにはねらいとその中身を徹底的に研究する事があらためて必要だと感じた。条件や場面をしっかりと提示していきたい。視点を明確にしていけば、思考は深まっていく。学習の楽しさにつながっていくのだろう。
- ・もっとも勉強になったのは、授業力の4つの要素のことです。また柳瀬先生の若手のころの学びの姿に感動しました。ぼく自身も若手にまけぬよう自分の専門教科において、こだわりをもって研究を続けていきます。

- ・これまで現場で算数のご指導をいただくことはありました。中堅となり、これまでのご指導を伝える立場になることを自覚しました。授業力について、もう一度考え、校内で研修に力を入れて参ります。
- ・校内研のあり方について考えさせられました。確かに、授業をしたら終わりになっている気がします。今後は授業協議後、修正した授業を行い、研究を深めていきたいと思います。
- ・教師は授業力で勝負、では誰と？という話が印象的でした。自分自身と勝負するため、さらに努力していこうという気持ちになりました。
- ・とてもわかりやすい講演だった。次回の講演も是非聞いてみたいと思う。
- ・3人のベテラン先生に影響を受けた話は印象的でした。それが心に残り、次へのステップにつながっていること。つながりあって若手を成長させていくことについて考えた。授業の見方を知って授業をすること、授業をみること、その場をつくっていききたい。
- ・1+1は何故2になるのか？のお話がとても印象に残りました。我々教員が当たり前と知っていることでも、今1度振り返って指導について考えてみる必要があると感じました。
- ・確かな学力を子どもに保障できる授業力、今の自分に一番足りないものです。教材研究をしたくても日々の事務に追われ、放課後は時間が取れない現状があります。もう一度授業力について考え、先生がおっしゃった分かる授業を追究し、実践できる教師になりたいと思います。
- ・柳瀬節がさくれつでした。育てるということがわかりたい。
- ・教師は熱い心をもって力をつけ、授業を作っていくべきだというメッセージを感じ、とても勉強になりました。
- ・授業研でのひとこまでは具体的な問題の条件や場面での思いこみ、勘違いに納得いきました。一人ひとりのちがいを大切に学習意欲を高めたいと考えていますが、一斉指導で一人ひとりのちがいを見極め、ちがった発問をすることに難しさを感じています。高い授業力を得るため、机間巡視のポイントなどを教えていただきたいです。算数の勉強は楽しいが授業は好きではないと言う子どもがいるという話を聞きました。コミュニケーションを図ることで授業が楽しく、勉強が楽しいと感じさせることの大切さを感じました。本日はありがとうございました。
- ・授業力がある教師とはどんな教師か4項目挙げてお話をいただき、いろいろな場面につながるものだと感じました。幅が広い中で具体的なお話もいただき、とても分かりやすかったです。また、算数の授業研での授業の考え方①～⑤のお話は、算数の授業に限らないもののように感じました。授業を考える時、意識していこうと思いました。

- ・勉強が楽しいと思えたり、自信があることは、もっとやりたいと思えることにつながる。日本の子どもは、そういった子が少ないのが分かった。算数が楽しい自信がある子を増やしたいと思うお話でした。お話が面白くてまた聞きたいと思いました。補助線のお話が特に面白かったです。
- ・現在、算数小人数での授業をしているので具体例が出てわかりやすかった。自分自身に力をつけられるように授業力がある教員に近づけるよう日々努力していきたい。ありがとうございました。
- ・授業力を高めたい、もっと楽しい授業をしたいという思いをもちながら、なかなか効率よく仕事ができず、負のスパイラルにはまっていた、そんな自分に喝を入れて下さったお話でした。ご自身の経験(算数)に基づいたお話や、授業研究(教材研究)の仕方等がとても分かりやすく、納得できる内容でした。続きのお話(第2回)も聞きたいと強く思います
- ・教員の仕事が忙しいこと、若手があまり先輩に聞こうとしないこと、時間もないことなど学校の置かれている状況をよくご理解いただきありがとうございました。
- ・授業力をつけるために、まとめやふりかえりの行い方や校内研の持ち方など改めて考える機会をいただきました。自分の授業の組み立て等をもう一度考え直していきたいと思えます。次回の御講演を聞かせていただく日を楽しみにしております。
- ・授業力、確かな学力の分析、具体的な言葉が心に残りました。
- ・授業力という概念からのお話で何が必要なのかわかりました。
- ・若手教員の育成は今日の大きな課題である。多忙な現場でどのように進めて行くかが大切であると感じた。
- ・若い時にすてきな先生に会えることって教師にとってその後を支える大きな要因なんだなあと改めて思いました。
- ・柳瀬先生の経験談を含め、若手教師のあるべき姿を教えてくださいました。学ぶ事が大切だと考えて今日から学んでいこうと思います。
- ・今の学校の状況や私たち教師が身に付けなければならない力がとてもわかりやすかったです。若い先生方に資料を渡し伝えたいと思います。
- ・授業力と指導力の差などとてもよくわかりました。若い教師に何を大切にして日々生活していけばよいか指導していきます。
- ・若手教師の願いを受け止めるところから、丁寧なお話で育てる側の人間として大変勉強になりました。算数の話(具体例)もとてもわかりやすく、そして自戒となりました。

- ・授業力のある教師について分かる授業を追究し、実践できる教師でありたいと思いました。そのために日々学び続けていきたいと思います。
- ・授業を一つ考えることに、細かいことまで目を向けて、子どもの目線に立って授業をしなければと感じました。
- ・授業力とは何か、授業力をつけるには何が必要かについて知ることができました。
- ・ここ数年の若手教員の傾向として事務仕事が早くできれば能力が高いと考える人が多く、いつもパソコンに向かって早目早目に仕事を進めている。授業について本気で考えるなら、もっと子どもと向きあい、もっと教師間で論じあったりすると思われる。学校は確かな学力をつける場所であり、学ぶところであると改めて気付いた。よい授業は子ども一人ひとりを大切にこそ作り上げられると思いました。
- ・授業研でのひとこまなど経験談を交えながら算数・数学の指導のポイント(肝要な点を新たな視点で示していただいた)若い先生方に授業研やミニ研修会で伝えたいと思いました。
- ・ $1+1=2$ この数学的な意味を理解している教員とそうでない教員では日々の授業にどう違うが見えてくるのでしょうか。
- ・長い御経験に基き、教師が大切にしなければならない点を上手にまとめて下さったとありがたく存じます。
- ・普段は何気なく使っている指導力、授業力という言葉の意味、授業力のある教師の定義について今一度学び直すことができました。1年生のたし算の問題では確かに現行教科書の問題にありがちで、何も考えずに出ている2つの数字を組み合わせて式を作ることが多いと思いました。図形等もそうで長方形や正方形を調べもせずにそう認識してしまうことが多いと思います。資料をゆっくり読ませていただいて現場の若手にも伝えていきたいと思えます。
- ・若手に授業力をつけるといっても、そもそも授業力が何なのかということがしっかり分かっているいなければならないと実感しました。続きのお話も気になります。
- ・明解でした。ユーモアにもあふれていました。授業で勝負する相手はだれかときかれたのはどきりしました。強く語らず、でも強くひびくお話でした。
- ・授業力の向上がよい教師の基本となるというのは様々な研修等の場で聞かされてきましたが具体的にお話いただけたことで、今後どのような部分を自分で学習・探究していけば良いかということがよく分かりました。先生のご経験に基づくお話がとても面白かったです。かごに玉を入れるお話・授業の組み立て方はこちらの深い教材研究と多面的な見方が大切だと学びました。ありがとうございました。

- ・発展、発展というけれど、発展思考を促していないという言葉にはっとしました。指導方法の形だけ真似てもダメで、教科教育の本質を学ぶことの大切さを改めて感じさせていただきました。ありがとうございました。
- ・世界的にみて、日本の子どもたちの頭が消極的なことに驚きました。小さいうちに思考を変えられるように、教師としての力量を高めたいと思いました。
- ・子どもたちが分かったと思う授業を実践していきたいと思いました。既習事項を上手に活用することが大切だと思いました。
- ・教師は授業で勝負する中で誰と勝負するのか、子ども、同僚、いや自分自身に勝負するという柳瀬先生の言葉、私も若い先生に伝えていきたいと思う
- ・校内の授業研究会では事前研修、模擬授業などを行っているけど、今日の話の中で事後の話がありました。今年は道徳を重点研でやっている。改善点をみつけ、なおした指導案(計画)で続けることの大切さを若手に伝えようと思いました。
- ・さらりと通りすぎてしまいそうなことに疑問をもち、つきつめていくことが自分は果たしてないと思いました。若手にそして自分自身に、授業力とは何かを問い直します。ご講演の中がありました、お互いに授業力の見方をしっかり身に付けて授業するし、授業を見るように自分がかかわれたらいいなと思いました。
- ・授業力、自分の毎日を振り返ってもあるとはとても言えないなあと感じました。どう振り返るべきかということも見えにくくなってしまっていたので、今日のお話を参考に勉強したいと思います。また、足りないところはどこか補うことしかないのかなあと、気合が入ったと同時に形になるのはまだまだ先だなあと割り切れました。
- ・算数の1年生のたし算の問題文の話で、普段は当たり前ですぐ式にしてしまうけれど、本当にそうかと立ち止まって問題文をしっかりと読む大切さを学びました。今、1年生の担任をして次の週からちょうどたし算の単元に入るので問題を読む時、作る時は言葉に気をつけていきます。子供たちには、本当にそうか？という視点をもたせながら問題解決していく力を身につけさせたいと感じました。
- ・豊かなご経験と、お人柄がわかるお話でした。
- ・第二段楽しみにしております。
- ・ありがとうございました。若い先生に資料コピーして渡します。
- ・わかりやすく、具体的で良かった。

- ・久しぶりに柳瀬先生のお話をお聞きすることができたことを嬉しく思っております。算数の指導内容にかかわるお話の場面では私も、すごくワクワクして、確かに、今の若い教師にも、いろいろ指導していきたいと感じました。
- ・授業研でのたし算の問題は、今まさに授業をしているところです。子どもたちに授業をするときに気をつけて行いたいと思いました。TIMSSの結果は興味深かった。これからどう授業を改善していくべきなのか考えていきたいです。
- ・条件や場面を考えさせないで、すぐ2つの数を足してしまうような子どもは育ててはいけないという考えを重く受けとめた。
- ・感想としては変なのですが、とても楽しかったです。自分の実践を見直すよい機会となりました。
- ・授業力のある教師について4つの視点と、その内容は何となく思っていたことが明確に書いてあり、若手に伝え、さらに日々の授業の中で具現化して、子どもとかかわり進めていきたいと思います。授業力についての4項目については研修(校内)などを行っていきたいと思っています。
- ・ありがとうございました。若い先生が、がんばれる環境も必要ですが、何よりも本人たちの意欲がほしいですね。
- ・まさに考えさせられる講演でした。正直様々な諸問題の答え(正解)はまだよくわかりませんが、それらについて、重点をおいて、考えなくてはならないと感じました。最後、司会者の方が柳瀬先生にご質問された算数は楽しいかというアンケートの調査結果(数値)がとても気になりました。点数は高い(問題は解けるけどつまらない)というのは機械的にやり方だけを教えているからなのではないのでしょうか…。ついテストの点を気にしている自分に気が付きました。
- ・レジュメP3にある平行線を基にした角度を求める数学の問題で、若き日の柳瀬先生が教師になぜ補助線をそこに引くのかと質問をされたお話が、とても印象に残りました。その問いの答えは感(感覚)というものでしたが、直感や感覚、感性といったものが生きる力の重要な源なのではないかということを考えることができました。
- ・小学校1年生の担任をしているので、「 $1+1=2$ 」のお話、たし算の「12コは正しい？」のお話、大変参考になりました。明日からの単元「あわせていくつ」で必ず条件をはっきり示した上で、学習を進めていこうと思います。
- ・「 $1+1$ はなぜ2になるか」のエピソードや、かごの中の玉の問題のエピソードから、算数、あるいは何かの問題や事象を本当の意味で追究し、理解するということの厳しさに気づかされたような気がします。子どもに、何を理解させるのか、またその理解させたいことを、自分が的確に捉えられているのか、授業づくりの際に慎重に考えていきたいと感じました。

- ・大家の話が聞け、またこの会の趣旨にかける思いをうかがい感動しました。賛同し、自分が現場で役立てられることをしっかり考えていきたいと思います。
- ・算数のお話おもしろかったです。次回も楽しみにしています。ありがとうございました。
- ・いつも新しい発見があり楽しませてもらいました。
- ・授業力、つけたいです。

第1部 基調講演 柳瀬 修先生講演についてのご意見・ご感想をお書きください。〈一般〉

- ・風格のあるお話しでした。授業力は学校教育に限らず、社会教育や生涯教育にも大いに参考になりそうです。若手教師に限らず、少なくとも、比較的若手の教育者や技術者にも大きな武器になりそうな印象をうけました。
- ・今の先生に求められている能力は、非常に高く幅広いことを求められているのだなと思いました。久しぶりの授業は楽しかった。続きを是非聴かせて下さい。
- ・ユーモアを交えていらして、興味深く聴かせていただきました。
- ・かごの玉は使わせていただきます。講演の最後のお話しされていた、校内研の在り方についてなど少し突っ込んで話を聞いてみたいと思いました。
- ・どのように改善があり、実践につなげていくのかお聞きしたくなりました。
- ・探求力のある教師、教師は「授業」で勝負する。教師自身との勝負という根本の説得に感銘しました。
- ・算数という教科を通じてあたりまえのこの意味を考えてみようと思いました。次回の「授業力」を高めるための4つの視点/授業からの講演を楽しみにしております。
- ・若いころのご経験がさらなる努力に結びついたお話を大変興味深く伺いました。
- ・柳瀬先生のお話から自分との共通点を多く見出しました。
- ・旧制中学の頃の体験談、補助線の書き方等のお話しは興味深かった。
- ・教師の在り方を提示していただき改めて考えさせられた。
- ・授業力ということについて大学4年間を通してじっくり考えていきたいと思いました。
- ・子ども達が「理解する」ということはどういうことなのかなど改めて言われて気づくことが多くありました。

- ・授業はどのような方針で行えば良いのかといったことの定義が明確に分かりました。
- ・生徒のなぜに簡単に答えを与えるのではなく、自分で閃くまで待つということも大切なんだなと思いました。
- ・問題を出す場合において条件を発揮させることが大切だとわかった。このように教材を細部にまで知り尽くし、かつ子どもに伝わるような語り方こそが授業力の向上につながると考えた。
- ・私は算数・数学がずっと苦手でした。42歳にもなって数学を見ただけで頭が痛いです。算数をどうしたら好きになれるか学びに来ました。それでも苦手意識は消えません。学校にて算数の教え方がわからないと不安な学生が多いです。算数は奥が深くてなんとなくでは教えられないと思いました。考えることこそが求められることを改めて理解できたお話しでした。算数を具体例として挙げていただいたが、他教科他校種にも当てはまる講演であった。
- ・若手教員の傾向について改めて認識させられました。先輩教師に聞けなくて、自分で抱え込んでしまう、他人事であると思っておりましたがよくよく振り返ると、自分のことであると気付きました。また、分かる授業とな何か、算数の本質を教えるとはどのようなことなのか学ばせて頂きました。
- ・校内研究の体制を変えるべきであるという言葉が印象に残りました。
- ・PDCAサイクルの上での学校は動くべきであると感じ、評価までしたのならば、改善すべきであると感じました。
- ・これから教師になるために学んでいく中で、「授業」の大切さを感じてます。私自身小学生時代を思い出し、分かる授業は意欲的に学べるという体験をしました。「どこを」どのように考えさせるのかという点にも気を付け分かる授業を子ども達にしていきたいなと強く思いました。
- ・正に教師のあるべき姿だったと思う。授業力は大変重要であると思うが、それは何も児童の前でだけ出来ていればよいというものではないと感じた。まだ実際に児童の前での経験が少ないので今はその知識を重点的に身に付けていきたい。
- ・終始穏やかな口調で進行され、とても安心感を感じながら話を聞くことができた。先生ご自身のエピソードを踏まえながら非常に分かりやすくお話を展開されていて、話すクリニックの面でも大変学びになった。
- ・「授業力を付けよう」という内容を聞いていてとても理解しやすかった。又お話を聞いてみたいと心から思えた。

- ・教員を目指す学生にも基本として伝えたいことを押さえていただいた内容だったと思いました。教師として授業力を身につけることの必要性をとて実感することができました。
- ・授業の各要素はそれぞれが必要であり、それぞれのバランスがしっかりしていることが教員の指導力向上につながると感じました。自らの経験なども豊富に交えていただき、とても参考になる講演でした。今回貴重なお話ありがとうございます。
- ・柳瀬先生のお話を聞いて人との出会いは成長につながっていくと感じました。やはり人を育てるのは人だなと感じました。
- ・これから授業を追求し実践できる教師を目指して頑張りたいとおもいました。
- ・算数のお話しはとてもおもしろかったです。
- ・条件や場面を考えないですぐ2つの数を足してしまう子に育てたくない。この言葉が印象的でした。前提や条件がしっかりと教員で設定するのを感じました。そのための教材研究や教科書紙面分析が必要だと思いました。何が前提なのか、これを知るためには本当に教員が教える内容を知っているのを感じました。これは最後に言われた「意味の意味」も考えなければいけないと思う。
- ・ご講演の中にあつた「勘＝経験の差」という話が印象的でした。教科の内容ももちろんですが、学習規律の整え方、宿題の出し方など、ベテランの先生がごく当たり前のようになっていることも、何年もかけて考え実践してらっしゃったことと思います。私は若手として訓練・経験する時期だとして常に心に於いて積極的に学びの場に参加していきたい。
- ・よくわかる授業、納得できる授業、受けて楽しい授業、そんな算数指導こそ教師の授業力に拠ること。変わらぬ信念のあるご講演に感謝してお聞きしました。
- ・ありがとうございました。「確かな学力」「授業力」について基本を教えてくださいました。既習したことをどのように使い、どのように考えてどんなふう解いてゆくのか、この部分の話が大変面白かった。だんだん面白くなってきそうで楽しみです。
- ・金曜日に行ったという話を聞かせてもらおうと若い教員はうれしいと思います。
- ・TIMSSの結果より子ども達が心から楽しい、自信があると思えるような授業を目指していきたいと感じました。改めて子ども達に何を教えるのかそのために必要な力は何か考えさせられました。
- ・数学の面白さとの出会いのお話がとても面白かった。柳瀬先生にも若いころに悩まされた経験があると分かり勇気づけられた。

- ・経験談も交えて具体的なメッセージが伝わってきました。2回目も期待してます。
- ・考えさせるところ教えるところの違いや自分の勉強不足等考えさせられました。自分がきちんと指導すべきことを指導できるように確かな指導力を持ちたいと思いました。その為にも引き続き自分自身が学んで行きたいと思います。
- ・柳瀬先生のようにいつまでも学び続けていきたいと思いました
- ・具体的な先生の経験からの話がとても興味深かった。授業力をつけるためには学ぶ姿勢、意欲がとても大切であると思いました。

第2部 堀田龍也先生・藤川大祐先生対談についてのご意見・ご感想をお書きください。〈教員〉

- ・若手が先輩から学ぶこと、若手同士のつながりコミュニティの中での学び合い、これから大切にしていきたい。たくさん挑戦し、たくさん失敗し、ほんの少し成功したらいいと思いつつ努力したい。
- ・10年先の状況を思い焦ります。日々のドリル・ノート指導といった基礎基本、全ての土台となる型や形式の大切さを感じた。一人だけでは限界があり、人々とのつながりを大切に学びたい。
- ・一人で悩んでいたのが堀田先生に言い当てられてホッとしました。教えていただいたことに食欲になりたい。明日から子どもを探る人になりたい。それが子どものためになるはずだから。
- ・現状の認識、課題、解決する方向付けを多くお話いただき、学校に持ち帰りたい話が聞けた。
- ・堀田先生はご専門の話よりも机上(アナログ)指導の基本をお話をいただき、改めて大切さを痛感した。お二人のお話のアプローチはそれぞれ別の観点からでしたが、これからの教育そして若手教員を支えるために具体的にどうするのかという共通の目指すものを示して頂いた。
- ・基礎基本の大切さ、年代における役割を感じました。
- ・教員の環境作りに多くの方々が支援に動いていることに驚きました。将来教師が教育に専念できる環境作りの活動がしたい。
- ・これからは、学習規律が重要だと感じた。今後は教員も社会に出て情報発信すべきと感じた。
- ・義務教育では丁寧さが基礎的な学力形成には必要だと感じた。当たり前のことを当たり前にしたい。
- ・テンポよく、今後の具体的な動きが見える対談でした。
- ・色々な人との関わり、またコミュニティに属することで情報交換する大切さを感じました。さらにその情報を発信していかなければと強く感じた。

- ・堀田先生の授業の話は初めて聴き、納得しました。現場の習慣がバリアとなり、若手教師が学ぶ環境が整っていないと感じ反省した。
- ・今の現場の状況を踏まえ、ベテラン教師から学ぶ事の危機的な重要性を感じた。
- ・堀田先生の「技術ならば伝承」、藤川先生の「異質な人が学べる場」、「若い先生が教育を変えていく新たな学校文化を作っていける人」が心に残りました。
- ・二人の先生の課題が共通していることが、これからのテーマだと知らされた。
- ・若手教員の支援には何が必要でなぜ今必要なのか改めて認識できた。
- ・先輩から伝えること、伝えなければいけないこと、若い人たちから学ばなければいけないこと、新しく開拓していくこととの両方やっていくパワーのある教員が必要なんですね。
- ・幅広い見地から多くの示唆を学びました。若手、それを支える立場の両面で勉強させていただいた。
- ・今の学校の状況をどのように変えていくか考えさせられた。又変えるためにもこの話が必要である。
- ・現状、今後の理解、色々な角度から考え、とらえることができ楽しかった。
- ・今の教育課題、これからの教師の在り方について参考になりました。ドリルやワークの活用法など今後本校でのOJTで活用したい。
- ・若手教師がつぶれるのは「児童指導」と「保護者指導」です。
- ・現場を支えたいという思いが伝わりました。ベテランの技を若手に伝えていくという中堅の役割を果たします。
- ・子ども達が分かった・出来たという思いが引き出せる教師になりたい。「今」学ぶ学び続ける人でありたい。
- ・若手教師が抱える内容に沿っていたので非常に為になりました。こういう場があることで日々の生活に生かせてありがたい。
- ・教室環境や机上の整理、ノートの丁寧さが学力にもつながることが分かった。
- ・情報収集は教師の仕事であるという藤川先生の力強い言葉、現場にも伝えていきたい。

- ・ベテランとしてやらなければいけないことを考え、行動に移すことが求められていることを痛感した。
- ・人と人とのつながりの大切さ、子ども達のために何かをしたいという人たちが集まって行動すれば何かが変わると信じてコミュニティーを広げたい。
- ・対照的な中身かと思いましたが、根はつながっていることが分かり、見ていてあっという間でした。
- ・「考える人より探る人」「学んだ人より学んでいる人」この言葉がとても心に残りました。
- ・日々の業務に追われ、教員としての根本的なことを思い出させていただいた。
- ・個々の教師の指導技術を磨くとともに、学校全体でノートの書き方、ドリルのさせ方等の研修も取り入れるべきだと思いました。
- ・義務教育の場における基本的な生活習慣をきちんとできてこそ、基礎学力の向上につながる。授業を通して人としての思いやりや心の在り方を学んでいける。授業をしっかり行う教師でありたい。
- ・若い教師たちが抱えている不安や悩みに対する堀田先生の考え方が、今の自分を客観視して必要なもの、やるべきことを考えられるきっかけになりました。
- ・事実や調査結果を示してお話し下さるので、すごく納得したり共感できました。
- ・未来を見据えた革新的な話題が多く、とても刺激を受けました。ベテランの先生方も学びながら多方面にアンテナを立て、学び続ける姿勢が大事だと痛感した。
- ・学校の枠を超え、大変だけど新しい物を取り入れることのできる環境という言葉が心に残った。
- ・堀田先生の7項目について「伝承」については「丁寧さ」「学習規律の徹底」の大切さをまずは意味付けと合わせて校内に伝えていきたい。
- ・「つながる」がキーワードだったと思います。若手がベテランの技術を受け継ぐことができる。ベテランが若手に伝えることができる仕組みを作る、コミュニティーを作ることが必要だと思いました。
- ・教師間のコミュニケーションがとれる場づくりが大切と感じた。管理職としてどのようなコミュニティーを作るかが課題である。

- ・「切れる包丁を持てば、料理がうまくなるわけではない」教師としての基礎基本を学び失敗の中から向上していく1年だと思う。校内研の見直しというのも大変興味深く拝聴した。
- ・学校が十分に機能するためには若手は基本的な力量を付け、教科書を分かりやすく教え、漢字計算の指導ができるようにすることが大切である。若手の孤独防止も必要である。
- ・目的達成のためそれぞれの年代の役割が知りたい。また、成功した学校の例も知りたい。
- ・教師1年目で右も左も分からないなか、ノートやドリルの使い方までアドバイスをいただきありがたい。
- ・堀田先生や藤川先生のような「上機嫌な職場」にしたい。横のつながり、縦のつながりを持って情報交換して、自信を高め子どものために頑張りたい。
- ・対談は分かりやすく聴きやすかった。「誰かのために」これからの教師は「今学んでいる人」という話はとても感銘を受けた。堀田先生のデータに基づくお話しはこれからの指導に生かしていきたい。
- ・立場やフィールドが違う先生方が、この会の内容のみならず、日常の研究や様々なお仕事に仕込んでいらっしゃる哲学に「共通点」が多いことに大変学ぶことが多く、心が動かされました。
- ・藤川先生のお話を思い出し、またやる気が湧いてきました。外にアンテナを張り情報を集めることも仕事、今まで自分に足りなかった概念を初めて諭して頂きありがたかった。
- ・ノート指導まで聞けるとは意外でした。機会があればタブレット・PCなども伺いたいです。
- ・学習規律、教材の活用に対して経験話でなく実際に有効に活用できるように伝えることが重要。
- ・学校や先生を取り巻く現状、その状況を克服するためどこから取り組めばよいかを示して頂いた。
- ・これからの若手教師がどんな知識をどのように身に付け、よりよい授業、学校づくりに参画していけばいいのか示唆に富んでいた。
- ・若手教師をどのように育てようと思われているのかそれぞれの立場からはなされていた。根の部分につながっていて若手の力を技術面と人間面から育てようという気持ちを感じられた。
- ・お二人の先生の人柄がよく出て、肩ひじ張らずに勉強できました。

- ・ラフな雰囲気ですらゆったりとした気持ちで聴いていました。やはり狭い世界で生きてちやいけな
と感じた。
- ・堀田先生のつながるしくみの大切さを感じました。若手を育てるうえでベテランと若手がつな
がっていなければならない、そのしくみをどうするか、そこが大切。まずは技術を伝承す
る、そこから新たな発想が生まれる。
- ・若手を育てる立場として、まず、今すぐできる授業技術を身につけさせるために、校内や地域
でも若手教員がつながるような場を作りたい。
- ・若い教員が多いとただ漠然と感じていた。育てる視点は現状をきちんと見ていくことから生ま
れる。まずは当たり前を伝えられるようまず自分の実践を伝えていこうと思います。
- ・学習規律、基礎学力を付ける大切さ、そして教師が色々なつながりを持つことの大切さを気
づかされた。学校だけでなく視野を広げアンテナを広げて授業力を付けていきたい。
- ・とても楽しい対談でした。学ぶこと、つながること、若手を育てることを楽しんでいきたい。
- ・社会の風を入れながら学校を変えていかなければと感じた。「誰かのために」役に立つ人間を
育てる必要性を感じた。
- ・「一人だけではできない」若手もベテランもつながりあって成長していくものである。頑張っ
ている若い先生を一人にしないための環境づくり、学校としての在り方について考えさせら
れた。
- ・現場において教員の若返り化については肌で実感してます。学ぶ立場としてまた新しく入って
くる後輩について、深く考えさせられました。
- ・教師として何を大切にするか、日々何を意識して教師として精進していくのか考えさせられま
した。
- ・相変わらず面白い、またわかりやすい。
- ・冗談を織り交ぜて楽しく拝聴出来ました。コミュニケーションの大切さ、自分だけの授業ではな
く先輩方から教わり、自分なりの授業をしていきたいと思いました。
- ・若い教員のためにドリル・ワークの使い方については資料参考にします。堀田先生のスライド
に「出来て楽しい」とありますが、若い先生・一部のベテラン先生にはそう捉えることの弊
害ではないですが知識技能の教え込みになり思、判、表を重視しない教員を育てかねな
いと思いました。「楽しい」→「考えることが楽しい」「みんなが学び創り出すことが楽しい」
そういう授業観が大切であると伝えてほしい。

- ・若い教師に必要な技術伝達、学習規律については、自分もベテランから学ばなければと思いました。日常の指導を変えていくことで若い教師の授業力向上につながると思いました。

第2部 堀田龍也先生・藤川大祐先生対談についてのご意見・ご感想をお書きください。〈一般〉

- ・非常に活発な対談でお二人の先生の教育に対する大きなエネルギーを感じる事ができました。
- ・打合せなしにもかかわらず沈黙なくテンポよく周囲に目を配られながらいつの間にかこちらが引きつけられていた感じです。現状を知ることは第一歩、若手教師のニーズにも応えられそうに思いました。先生方の実行されているような取り組みを全国的に展開していくためにどの様にすればよいか考えさせられます。
- ・対談が面白かった。特に藤川先生の「学びの場を作る」で提案している現職教師が学べる大学を、色々な教育関係NPOと連携してWEB上にバーチャル教室を作るのをJEESで検討してみてもいい。
- ・藤川先生へのプレゼン資料の文字はパワーポイントで16ポイントの文字サイズが下限の限界です。話す速度の重要。速すぎると定着しません。次回改善してください。
- ・堀田先生のプレゼンの中で若い先生に対しては深く考えさせる授業のような理想ではなく、ドリルの授業研究があっても良いのでは？とのこと興味深く聞きました。若い先生方への伝達について私たちで何か支援できることがないか考えさせられました。
- ・新しいものへの取り組み、双方との啓発、人材育成、そしてベーシックなところでの検討委員会の必要性を改めて感じました。
- ・私自身若い営業として対談を聞かせていただきました。普段の仕事等では聞けない話が聞け、本当に多角的なコミュニケーションが必要だと感じた。
- ・ベテラン教員のノウハウが伝えきれない現実には、ネガティブに捉えられていると思いますが、お二人のような指導者がいることは明るい方向性を見出されることと感じました。
- ・データに基づいた話は説得力がありますが、解釈次第という気もします。マイクの音響もあまりよくなく、聞き取りにくいところもありました。
- ・堀田氏の技術伝承から若い教師に伝えるという絵はなるほどと思いました。ただむしろ技術を伝承可能にするコミュニティとの相互構築が大切だと思った。

- ・藤川先生がこれからの学校①でおっしゃっていた「自分のためだけに」ではなく「誰かのために」学ぶということを生徒に教えることの大切さについてですが、私自身は2つの意見を持っており、1つは、生徒が社会に対してインパクトを与えうる自分の潜在能力に気付かせるような教育を提供する必要があるのではないかと言うことです。もうひとつは自分のための勉強ではなぜいけないのかという疑問です。
- ・異業種交流による社会とのつながりの大切さがわかった。また、SNSをはじめとして、今の社会にはそのようなツールがたくさんあるので利用していきたい。様々なコミュニティーに活動する場を持つことが大切だと感じた。そういったフットワークの軽さが必要。
- ・堀田先生：義務教育に必ず要る「型」の話、コミュニケーションの話とても最高でした。藤川先生：大学へも出張授業していただけませんか。
- ・若い先生は情報入手が比較的容易になっているので、もっとコミュニティーを広げていけたらと思う。温故知新ですね。
- ・今後の展開楽しみです。「つながる」手立てこそICTかなと。
- ・内と外の視点からの対談だった。学校教育とその外にある世界がつながって、子ども達に外の世界が見える授業をしていきたいと感じた。
- ・若手教師を取り巻く状況がわかりました。また、若手教師は、横のつながりを増やし、コミュニティーを広げていくことが大事だと思いました。藤川先生の「自分たちの周りは自分で解決していく」子どもに「社会のために勉強しなさい」ということは印象的でした。また、お二人の対談を拝見したい。
- ・「つながろう」若手教師たち!という題で話されてきたのかと思うくらい、繋がり、きづなの大切さを感じました。堀田先生のお話では「出来る→分かる→楽しい」授業づくりをしようと思いました。その為には専門性とベテラン先生の知恵を引き継ぎながら行こうと思います。藤川先生のゼミ生の育成が気になりました。
- ・ボランティア活動の中で、様々な先生の指導を見ることがありませんが、ノート指導の大切さを強く感じるがあります。また、ICT活用ということで、私の学生時代よりも、視覚的にも楽しい教材が多くあると思います。それらをうまく活用し、分かる授業を展開していきたい。
- ・ベテランから若手への「伝承」。これはまだ現場に出ていないので、感覚的にはわからない。しかし、その時間がない中年の先生方がとても忙しいのは座学でも学んでいたもので、その実態が聞けて勉強になった。何事にも若返りは重要であり、必然だと思うが、その補強、補助、を特に重要視しなければと感じた。

- ・堀田先生はICTのお話しでなく若手教員への支援に焦点を当てたお話でした。支援が必要な背景から始まり、具体的な支援を堀田先生ならではのユーモアな視点で話していた。藤川先生は、「若い教師を支援するとは」と題し、これからの教師に求められるものといった話を展開している。お話しの中で「上機嫌な職場」はとても心に残った。私もこれを実践できる人間になりたい。
- ・お二人の先生の日頃の実感をそれぞれ出して頂きました。お二人の活動が精力的になされていて楽しくされているのはいいなと思いました。
- ・若手教員や教員養成課程の学生を育てる両先生のお話から自分の残された学生生活の過ごし方について考える機会になりました。経験の浅い教員のすべきことで特徴についてよくわかりました。教員は社会に出ないという先入観を取り払うための藤川先生の活動や、教材研究会等を開催されている堀田先生の取り組みなど今後参加したい取り組みについて知ることができて良かった。
- ・堀田先生の学校教材活用セミナーに参加させていただいた後の今回のお話で、学習規律の大切さを改めて感じました。ノート指導やドリル指導に関してもたくさん学んでいきたいなと思います。藤川先生のお話しを聞いてもっとがむしゃらにもっと無茶なこととして行くことの大切さ、様々な方と関わっていくことの大切さを実感しもっとがむしゃらになりたいなと感じた。
- ・お二人に情報配信をよくされるので、実際にお話を聞くことができ楽しかったです。
- ・お二人の話から「他とのつながり」が必要だと感じました。堀田先生からはベテランからの伝承のしくみなど、藤川先生からはこれらを抱えつつ新しい風も入れる必要があるとお話しされたと思います。どちらも学べる仕組みコミュニティや繋がりやのしくみ=NPO法人となっていると思う。
- ・リーフレットの作成、学習会の開催等、「ベテランの技の伝承」に力をかけてくださっていることを実感しました。2年後には教員になる予定ですが、このような機会を活かしながら少しでも多くの知識を吸収して実践していきたいと思います。
- ・若い教師を育て支援しなければこれからの学校は大変ということで、育てる姿勢を強く感じました。うれしく聞き取ることができました。
- ・両先生が若年の先生方を支援していきたいというお気持ちがビンビン伝わってきました。特に堀田先生がいわれた「授業技術だったら伝承していける」という話が心に残りました。これから最も必要なことだと感じています。
- ・面白かったです、本当はもっと若者が来ることを想定していたかも知れませんが私のような歳ばかり取っている者にも有意義でした。ツイッターの「勤務中使用はあり」というのは刺激的でした。判断に迷うところではありますが、それくらいの変革は必要かもしれません。両先生のサポートを得て私も若い力を育てたいという思いを新たにしました。

- ・堀田先生の日々の授業での基本的な取り組みは、大変勉強になりました。ドリルやワークテストの活用、授業でのルールを明確にすることの大切さを感じました。藤川先生のお話の中で現場の環境を整えていくことの大切さ。意識することの必要性を感じました。
- ・お二人のお話しのコントラストが興味深かったです。若い教師への応援の気持ちがとてもうれしく思いました。
- ・もっと長く聞いていたかったです。表面的には違うように見えたが、本質的な部分では同じでいらっしやると思いました。
- ・現在はベテラン先生と組ませていただき毎日安心して過ごすことができます。この先がとても不安です。今のうちにしっかりと学べることは学んでいきたいと思えます。将来に向けて自分自身がしっかりと指導力が持てるようになりたいです。
- ・堀田先生のおっしゃった若手教員はもっとベーシックなところの技術が知りたい、というところに本当に共感しました。ものすごく基礎的なことすぎて聞きにくいことをもっとおしえていただきたいし、研究したいです。
- ・対談すごく楽しかったです。堀田先生、藤川先生のお名前は良く聞きますが、専門や教育に関する考え方を知ることができて良かったです。また、次回もお話を聞きたいです。
- ・学習規律の大切さ(学習内容の習得がリンクしていることを裏付けすることができたので)を改めて感じた。現場に居る子供の自由を奪うとか、個性がなくなる等を言う教師がいるので難しいが根拠となることがあきらかになったのでしっかりと伝えたい。

今後のシンポジウムへのご提案(ご希望のテーマ等)が ございましたら、お書きください。〈教員〉

- ・ドリルのやり方、答え合わせ、ノートのととり方等、セミナーで実現してほしい。
- ・具体的な模擬授業、普段の授業実践をお願いしたい。
- ・中学校の話題や教材を題材にしたお話も聞きたい。
- ・ICTの使い方(ワークショップ)を実演してほしい。なかなかそういう学ぶ場がありません。
- ・若手とベテランの授業分析など。
- ・授業力が身に着く事例を教えてください。
- ・小・中連携の必要性、具体的な進め方。
- ・西日本での開催してほしいです。
- ・児童理解発達障害への支援について。教科書指導法(具体的に)
- ・学習規律とは、大事にしていることなど。
- ・実際の授業での指導法や学級経営など具体的・実践的なもの。
- ・教員の専門性についてー授業中心に教育活動(仕事)をするために、そして、教員が授業に集中するための理想環境とはどういったものなのか。
- ・発達障害等、特別に支援が必要な児童への対応をしつつ、全体の指導はどうするか。
- ・対談をもっと充実して増やしてほしい。
- ・学級経営と授業研の持ち方。
- ・テストの直し方、フィードバックの具体例。先生が教員になりたての頃の話から、自分が成長したと思った瞬間など体験談の聞きたい。

- ・ノート作り、基礎学力の身につけ方、思考力・判断力・表現力の育成など具体的なテーマ
- ・今回と同じテーマ(柳瀬先生、堀田先生と藤川先生の対談)
- ・授業力の高め方、基礎学力の付け方
- ・「激変してきた学級環境」～発達障害、コミュニケーション障害から考える。学級経営職員の共通理解、指導援助～
- ・教師の日常テーマ「漢字計算」等教室内での効率のよい〇付け方
- ・保護者対処法等で若手教員が苦しんでいる。サポートしてほしい。
- ・若手教員のシステム作りを具体的にさらに聞かせてほしい。
- ・若い先生の育成の仕方について具体的に紹介してほしい。
- ・悩み相談若い教師にこれを指導したらこう伸びた
- ・新しい校内研修の取り組み。世代を越えた協力のもと、学校を変えた取り組みについて。実践事例の紹介
- ・若い先生の声を集約してもらってテーマができるとういですね。
- ・教科別の教材研究の方法・学級経営・生徒指導、堀田先生のお話しをもっと聴きたい。
- ・日本の教育に必要な江戸時代の寺子屋について話し合っていけたら。江戸時代の商人が生み出した和の思いやりの心「江戸しぐさ」をテーマにしてもらいたい。
- ・特別支援の観点からのアプローチを今後配慮してほしい。
- ・国語や算数の教科指導についてのハウツーや論理が分かることの両面についての講座や対談などがなされたりすると本当に若手は力がつくような気がします。若手教員が急増します。この課題解決に向け、この会から学び勉強続けます。ドリルやノートの使い方。今回のままで十分楽しいです。若い先生の育成について具体的にご紹介いただければ嬉しいです。今日の感じが良いです。

今後のシンポジウムへのご提案(ご希望のテーマ等)がございましたら、お書きください。〈一般〉

- ・ご出席の先生方も参加できる機会を作っていただき、生の声を聞かせていただきたいと思います。
- ・企業による出前授業について—どう活用しているのか。企業が提供する教材の普及状況、活用されていなければその原因と解決策(提供側と受け入れ双方から)
- ・学校教育に限らず、社内(社会人)教育や生涯学習を含めた「日本における教育の未来」
- ・授業力=教科指導力に偏り過ぎではないか。子供たちのモチベーションを高める具体的な方法等を事例をもって示すことが必要でなかろうか。
- ・授業の残し方=記録の仕方→ベテランの授業と若手の授業の比較映像を活用する
- ・聴衆の参加型のもの、ワークショップなどがあるとより良いように感じました。より具体的な若い先生の育成に関する具体例なども知りたいと思いました。
- ・若い先生方の生の声、ディベートのプログラムも希望します。
- ・今後は日曜だけでなく平日に開催されると助かります。
- ・概論から各論へ期待しています。
- ・初等教育中心なので中学校の教員は参加しにくいように思います(部活があるので難しいですが…)堀田氏と藤川氏のお話があわせると非常に興味深いお話となります。
- ・地域・家庭と学校の連携についてのシンポジウムがあれば参加したいです。具体的にどのようなつながりを作っていけば良いのか知りたいです。
- ・「いじめ」について、「早期グローバル教育」について、など、より細かいテーマについて考えて意見を共有する会。「きく」だけでなく「ディスカッション」する機会があったほうが「授業力」をつけるための「思考力」が身につくと思います。

- ・教師をとりまく実態について、様々な角度からせまっていてとても勉強になった。
- ・体罰問題、生徒指導問題
- ・ミニネタ、小ネタ等。メディアリテラシー。
- ・H25全国学力学状調査結果のよみとき。保護者調査から見えるであろう教育格差、社会的格差の相関関係、等。
- ・幼保・小・中・高・大・生涯学習の中に位置する「初等教育」という視点で学校教育を考えたい。学校種かかわらず、ゆるくつながりあいたい。

本日のシンポジウムの運営等につきましてのお気づきのことがございましたら、お書きください。〈教員〉

- ・会場のご案内等とても親切にご対応くださり、ありがとうございました。日曜日に濃い時間を過ごす機会をいただけたことに感謝致します。
- ・対談というのを初めて、しっかり生で聴きました。面白くてずっと聞いていられるなあと思いました。また、聴きたいです。本日はありがとうございました。
- ・とても有意義な会でした、またぜひ参加したいです。ありがとうございました。
- ・立派な会場でスタッフの方々もとてもいねいでした。
- ・とてもよい内容で、職場でも声を掛けてくれればよかったと思いました。授業力を高められるように教材研究を深めていこうと改めて思いました。第2回も是非参加したいと思います。
- ・椿山荘というすばらしい会場で学ばせていただきありがたかったです。事務局の皆様ありがとうございました。
- ・たくさんのスタッフさんの心づかいに感謝申しあげます。
- ・すごい会場でびっくりです。
- ・お世話になりました。大成功おめでとうございます。
- ・とても快適にすごさせて頂きました。ありがとうございました。(バスで一諸の人が予約できているかな？と話をしていました。)
- ・所属、肩書き含めたネームタグをつけて交流できるとよいなと感じました。ありがとうございました。
- ・交流会は学校の外の方と関われる貴重な機会だと感じます。ぜひ、継続してほしいと思います。
- ・すばらしい会場で、快適に研修させていただきました。また会場入口では教育同人社のみなさんに案内等ていねいにしていただきありがとうございました。

- ・ありがとうございました。新しい視点をもつことができました。
- ・大変勉強になり、ありがとうございました。授業研究の意欲がどんどん湧いてきて、職場の先生方にも沢山聞きたいことが頭に浮かんできました。とても実りある時間を設けていただきありがとうございました。
- ・発足の時にふさわしい内容、テーマでした。次回以降楽しみです。
- ・ありがとうございました。広い会場で気持ちよく学習することができました。スタッフのみなさんに支えられ、このような研究会発足の機会に参加させていただけたこと感謝します。資料等とても分かりやすくご準備いただきました。
- ・会場は広くて、すごしやすく、集中して学ぶことができました。
- ・若手教員ですが、ご講演の中であったように、若手(若い方)があまり見られなかったように思いました。ありがとうございます。
- ・報道関係者が隣の席でフラッシュ等をたきながら写真撮影をしているので講演等の話きくにあたり、とても目ざわりで集中できなかつた。話をじっくり考えながらきくことが出来ず残念。次回は改善策を講じてほしい、席を分けるなど
- ・スタッフの方々のご配慮、対応(あいさつ)等、大変良かったと思います。おつかれさまでした。
- ・大変有意義な会でした、ありがとうございました、次の会の予告もしていただきましたので楽しみにしております。
- ・大変ぜいたくな時間を過ごしました。ここまでのご準備に心より感謝申し上げます。
- ・すばらしい会場、すばらしい内容、ありがとうございました
- ・すばらしい会場とスタッフの方々のお気遣い、そしてランチまで本当にありがとうございました。
- ・次回の案内も是非お知らせ下さい。
- ・ありがとうございました。
- ・特にありません、今後も続けてほしいと思います。

- ・椿山荘という素晴らしい施設でできたことは、大変よかったです、多摩の者としては交通の便がよい所だと、もっと参加しやすいかと思いました。
- ・次回を楽しみにしたいと思います。理事の先生方、スタッフの皆様ありがとうございました。
- ・スタッフの方がとても丁寧に対応してくださり(席の案内など)よかったですと思います。とても気持ちよいシンポジウムになったと思います。
- ・実り多い内容ありがとうございました。
- ・すてきな場所で学びに参加できたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・とくにありません
- ・SNS等での共有に対し、ご配慮いただきありがとうございました。
- ・細やかな心配りをいただきました。快適に過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・大変、すばらしかったです。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。たくさんのご示唆をいただきました
- ・すばらしい会場でお話をうかがえたこと、きめ細やかなご案内、大変気もちよく学ばせていただきました。ありがとうございました。
- ・ていねいに対応していただきました。
- ・若手教員としては学ぶことができるのは数年で、その大切な数年を研修という名のがんじがらめで拘束されている今の制度について、もっと現場で育てることに焦点をあて、どのような仕組みを作っていったらよいのかなども伺いたかったです。
- ・私はテーブルも、いい椅子もありとても快適でした。運営も上手にされておられたと思います。ありがとうございました。
- ・学ばせていただきました、ありがとうございました。
- ・会場の運営をはじめ、今日のシンポジウム開催にあたり多くの方々の理解とご尽力のたまもので第1回が無事に開催されたことに心から感謝いたします。

本日のシンポジウムの運営等につきましてのお気づきのことがございましたら、お書きください。〈一般〉

- ・とても手ぎわよく運営されていたと思います。
- ・大変貴重な機会を頂きました。有難うございました。
- ・申し込みの際、Facebookのイベントページで「参加する」をクリックするだけでなく、メール送信も必要だったようで。申し訳ないながら、申し込み方法の通知が、もう少し徹底されていれば、当日の混乱を避けられたかも知れません。とはいえ、概ね温かい対応で、次回以降も参加したい意向です。
- ・出席できなかった地方の教員や教育関係者向けにUstream等でライブ配信してはどうか。今後開催するシンポジウム、セミナー等も映像を残して会員向けに配信することで入会促進となると思う。
- ・展示コーナーを充実してほしい
- ・若い先生方を中心とした多角的なコミュニティを期待しております。
- ・時間管理もスムーズでありました。
- ・ご努力に感謝いたします。相互交流の場がもう少しあると良いかもしれませんが、4時間程度は必要でしょうか。
- ・特にありません
- ・急な大幅な増員への対応も良かったです。
- ・良かったです
- ・ビラを置いてくださりありがとうございました。
- ・会場が狭かった。

- ・教師批判・学校批判・教育批判の中、日曜日にもかかわらず、シンポジウムに数多くの教員が参加しており感動した。大学生(まだ教員になっていない今)のうちに、このような情熱ある教員像を、社会に発信したいと思った。
- ・ご後援者の協力もあってすばらしい会場で快適に過ごせました。ありがとうございました。
- ・本日は貴重な機会に参加できたことを光栄に思います。受付や誘導スタッフの方々の対応は大変ご丁寧でした。会場につきましても、このような場で申し分ありません。今後のご発展をお祈りするとともに以降も都合が合えば参加していただきたいと思っております。
- ・特にありません。運営等ありがとうございました。また、次回も参加させていただきたいと思えますのでよろしく願いいたします。
- ・NPO設立おめでとうございます。賛助会員に申し込みをさせて頂きました。よろしくお願い致します。
- ・楽しく明るいひとときを有難うございました。
- ・広くてきれいな会場で気持ちよく参加出来ました。スタッフの方々も親切でありがたかったです。お世話になりました。
- ・早稲田から来ると〇〇(失念)門を通るのですが、10時にならないと開かないのでその旨を事前に伝えておく方が良いと思います。かなり遠回りしました。明日の教室のように学生(あるいは経験年数の少ない教員)は無料で、それ以外は有料にすると若者が集まるのではないのでしょうか
- ・教員三年目です。今回のシンポジウムで改めて子ども達の学力を高めるために授業力、指導力をつけたいと感じました。常に学び続ける姿勢を持ちながら、子ども達の学ぶ意欲を高めていけるよう明日から実践して行きたいと思えます。
- ・大変快適に過ごさせていただきました。様々なお心遣いをありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・とても楽しいシンポジウムだった。ざっくばらんな感じで「遠い」感じがないシンポジウムであった。それも運営がしっかり支えているからだと思う。
- ・活用型・探究型の学びについての実践や考え方についても取り上げてほしいと思えます。

- ・若手教員、教育養成課程の学生を指導している先生方が感じる現状と今後求められる研修の在り方について
- ・学級づくりのノウハウ。授業づくりのノウハウ。
- ・ランチは必要ないので、ぜひ定期的に今回のような会を続けてください。NPOや企業のブースがあってもいいですね。会場は広いところをとって我々若くない教員も仲間に入れてください。
- ・ベテランの先生の実践についてもっと伺いたいです。
- ・細かい授業技術について、お話をうかがえると幸いです。
- ・授業のしかた、具体的に。学級の1日のあり方(朝の会～給食～そうじ～etc)